



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	おわりに(fulltext)
Author(s)	田代,幸代
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学附属幼稚園, 24/25: 88-88
Issue Date	2013-12-07
URL	http://hdl.handle.net/2309/148364
Publisher	東京学芸大学附属幼稚園
Rights	

おわりに

副園長 田代幸代

幼稚園では、多様な個性をもつ子どもが150人、暮らしています。自分の良さを発揮して生き生きと遊び、この時期に学ぶべきことをしっかりと学んでほしいと願いますが、そこに至る過程には、いろいろな姿があります。不安が強くて動き出せないときや、思い通りに進められない葛藤を味わうときなど、私たち教師は、その子の思いや課題をどのように受け止めて援助することができるでしょうか。この研究では、保育記録を書きながら、それを考え、翌日の保育実践につなげてきました。

また、幼稚園では、いろいろな経験や立場の教職員が働いています。大学を卒業したばかりの教諭とは、毎日の記録を媒介として保育のあれこれをやり取りできることが、私の朝の楽しみとなりました。研究として記録の形式や視点を決めたことで、保育の営みの中から何をどのように考えていけばよいのか、道筋が見えてきました。養護教諭も、同じ方法論を活かして、記録の形式や内容、活用方法を検討することができました。それをつなげた初めての試みとして、研究協議会に養護教諭の保健指導実践および分科会を設定できたのは、大きな成果と思っています。全員で記録をとり、それを基にして互いの保育実践を語り合う研究会では、若手もベテランも同じ土俵で共に考え合い、一人一人が主体的に研究活動に参加することができたと思います。まさに保育記録の活用が、園内の教職員の協働性を強めたと自負しています。

最後になりましたが、私たちの研究を支えてご指導くださった皆様に御礼を申し上げます。河邊貴子先生には保育実践の具体的な指導をはじめ、記録の形式や内容という本研究の骨格となる部分について学ばせていただきました。岩立京子先生のご指導からは、記録を通して実践の評価をどう表していくのかという視点を得ることができました。赤石元子先生には、元副園長という本園を知り尽くしている立場から、教師の悩みを共有しながら、温かくも鋭いご指導をいただきました。恩師である小川博久先生との研究会は、環境を通して行う幼児教育の基本をあらためて学ぶ時間となりました。さらに、本学の福元真由美先生、吉田伊津美先生、水崎誠先生、倉持清美先生には、日常的な保育のみならず、学生指導や現代の保育課題解決に向けた共同研究など、ご指導をいただいているところです。本園の教育活動を理解し協力を惜しまない保護者の皆様と、教育活動の広がりを支えてくださる地域の方々にも、心から感謝しています。ありがとうございました。

今後も、大学や地域、家庭と連携し、子どもたちの豊かな学びを育む幼稚園であり続けたいと思います。そのためにも、この研究成果をつなげ、質の高い学校教育としての幼児教育を追究してまいります。